

自信をまとう初V

待望のビッグタイトル

3 オーバー、75

研修生の本田真暉（くまもと城南）



【写真④は初優勝した本田真暉、⑤は本田のコーチをする松村瞳プロ】

1つの勝利や1つのタイトルが、その選手を大きく変えることがある。これまで大きなタイトルとは無縁だった本田は、自信というかけがえのないモノを手に入れた。「これと言った優勝経験はないし、優勝を目指してきました」。その通りになったのである。

18ホールストロークプレーの1日勝負。ちょっとしたミスが取り返しのつかないこと

になる。本田はインスタート。16、17番でボギーを叩き、前半のインは38。後半のアウトに入っても1、2番と連続ボギー。流れは良くない。だが、3番のロングで2mのバーディーパットを沈めて一息つく。「松村（瞳）コーチから『ピンチになったら読みなさい』」とスタート前に手渡された手紙を見たことで心が落ち着いたか。そこには「笑顔で」「強気の気持ちで」などと書かれた文字があった。4番でスコアを1つ落としたものの、7番でも2mのバーディーパットを決める。結局、このバーディー2個分が2位との差となった。

熊本市の長嶺中1年から父親の影響でゴルフを始めた。身長は170cm。「食べても太れない」というスリムなボディーで本田の目標は55kgだが、体重計の針は52kgまでしか指さない。ドライバーの平均飛距離は230ヤード。食育で悩みが解消されれば、ボールの飛びも変わってくるはずだ。

現在25歳。東海大星翔高3年時からプロテストを受験し、これまで7回落ちた。「七転び八起き」という諺もある。松村プロは本田について「引きずらないというか、気持ちの切り替えが早い」との長所を挙げ、逆に短所として「あれだけの上背があるし、もっと努力して欲しいし、執着心を持ってもらいたい」と注文をつける。本田は決して若いという年齢ではないが、今回の優勝でなにかしらのスイッチが入る可能性は十分にある。



大会が始まる前の伊都GCの1番ホール。グリーンからティーイングエリアを見る



伊都G C 1 番ホールにある埴輪。その前には打つ順番を決める「スタート抽選器」がある